

## 義務教育課だより 10月号

### ～本年度の県学力診断調査について～

「天高く馬肥ゆる秋」

日中はまだ額に汗する時刻もありますが、朝夕は涼しく感じられ、季節は確実に秋へと移り変わろうとしています。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度は、「例年どおり」が「本年度については」となったケースが多々あります。県学力診断調査もその一つです。

6月、各学校の先生（1校3名程度）を対象に「学びの保障」に係る実態調査を行ったところ、「臨時休業が長期化したことにより、児童生徒間の学力差が広がっている」と感じている先生の割合が85%に上ることが分かりました。そこで、本年度の県学力診断調査は、「調査」としての実施を見送り、過去の問題を再構成して作成しました。これによって、各学校はコロナ禍以前の平均正答率等との比較が可能となります。各教科の内容の一部とはいえ、過去の結果と比較することで、既習事項の定着度や、臨時休業等による学習への影響をみることができます。

また、本年度については、各学校が5月中旬の学校再開以降、夏休みの短縮や7時間授業の設定等により授業時数の確保に努めている状況に鑑み、先生方の負担軽減を図るために、

- ① 問題数を削減（1教科20～30分で実施可能）
- ② 実施及び学習成果検証システムへの入力は学校の任意（システム利用期間は10/1～3/26）
- ③ 復習用プリント、家庭学習用プリントとしての使用も可

としています。

御案内のとおり、問題の冊子と解答用紙は10月1日に各学校に配付する予定です。すぐに実施しない場合であっても、到着次第、部数を確認し、もし不足している場合には、各市町の教育委員会までお問い合わせください。

また、これまで同様、『愛媛学びの森学習支援サイト』に本調査の正答例、過去の正答率等とともに、本調査問題を活用した指導改善資料を掲載しておりますので、是非活用してください。

なお、Q & Aを以下に示しますので、本調査問題の積極的な活用につながるよう、こちらも併せて活用してください。

## 令和2年度県学力診断調査Q & A

Q 1 今回、学習成果検証システムに入力した場合のメリットは何か。

A 1 検証システムに入力した集団内で平均正答率等の比較ができます。また、「学びの森」に示している「問題の構成表」には、過去の県の平均正答率を一覧にしていますので、それとの比較も可能です。さらに、児童生徒の個票を出力し、個別に結果を返却することが可能になります。

Q 2 10月以降の実施を想定しているが、出題は既習の範囲内か。

A 2 対象学年の前学年までの学習内容を中心に出題しています。未履修の問題がある場合は、実施時期を定めていませんので、学習後や次年度での実施、対象学年以外での実施、授業における復習や家庭学習用としての活用等、各学校の実態に応じた様々な対応が考えられます。ただし、検証システムへの入力は、10月1日(木)～3月26日(金)までとなっています。

Q 3 - 1 既に過去問として実施済の問題が出題されている場合は。

- 2 また、検証システムにその結果を入力することに問題はないか。

A 3 - 1 授業における振り返りや家庭学習の課題として、既に今回取り上げている問題を児童生徒に提供している場合も、調査問題として活用していただいてもかまいません（一部の学級や一部の児童生徒が活用している場合も同様）。

- 2 学習成果検証システムにその結果を入力することも、問題ありません。

Q 4 児童生徒による自己採点の結果を入力したのでもよいか。

A 4 今年度の調査については、児童生徒による自己採点を想定していますので、問題ありません。本調査においては、過去の問題の中から、選択式及び短答式の問題を多く取り上げ、自己採点が容易になるよう配慮しています。

Q 5 記述式の問題の自己採点はどのようにすればよいか。

A 5 例えば、解答の要素として必要な事柄（キーワード等）を教師が示し、ペアやグループで解答を共有して話し合いを行って正誤を判定する活動などが考えられます。その後、必要に応じて教師が確認、フィードバックを行うことも有効です。記述式の問題においても、児童生徒が自ら正誤を判断できる力を付けさせることは重要であると考えます。

Q 6 1時間のうちに2教科の調査を実施してもよいか。

A 6 1教科当たり 20~30 分で実施できるため、1時間で2教科の調査を実施することも十分考えられます。